

安全データシート

版番号 6.6
改訂日 29.10.2023
印刷日 24.02.2024

1. 化学品及び会社情報

1.1 製品識別名

製品名 : Formamide

カタログ番号 : 11-0750

ブランド : Katayama

CAS番号 : 75-12-7

1.2 他の特定手段

データなし

1.3 推奨用途及び使用上の制限

特定用途 : 研究開発での使用のみ。薬事、家庭用その他の用途には用いない。

1.4 安全データシート作成者の詳細

会社名 : Sigma-Aldrich Japan G.K.
1-8-1 Arco Tower, Shimomeguro, Meguro-ku
TOKYO 153-8927
JAPAN
東京都目黒区下目黒 1-8-1 アルコタワー
担当部門 : ライフサイエンス
レギュラトリーアフェアーズ

電話番号 : +81 (03) 6758-3625

FAX : +81 (03) 6756-8300

1.5 緊急連絡電話番号

緊急連絡先TEL : +81 (0)3 4520 9637 (CHEMTREC)

2. 危険有害性の要約

2.1 GHS分類

発がん性 (区分2), H351

生殖毒性 (区分1B), H360

特定標的臓器毒性 (反復ばく露), 経口 (区分2), 血液, H373

このセクションで言及された H-ステートメントの全文は、セクション 16 を参照する。

2.2 注意書きも含むGHSラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

H351

発がんのおそれの疑い。

H360

生殖能又は胎児への悪影響のおそれ。

H373

長期にわたる、又は反復ばく露 (経口) による臓器の障害のおそれ (血液)。

注意書き

安全対策

P201

使用前に取扱説明書を入手すること。

P202

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

P260

ミスト / 蒸気を吸入しないこと。

応急措置

P308 + P313

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察 / 手当てを受けること。

保管

P405

施錠して保管すること。

廃棄

P501

内容物 / 容器を承認された処理施設に廃棄すること。

専門的な使用者に限定。

2.3 他の危険有害性 - なし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 化学物質

化学特性(示性式、構造式 等) : CH₃NO
分子量 : 45.04 g/mol
CAS番号 : 75-12-7
EC番号 : 200-842-0
化審法官報公示番号 : 2-681
安衛法官報公示番号 : -

危険有害成分

化学名	分類	含有量
ホルムアミド		
	Carc. 2; Repr. 1B; STOT RE 2; H351, H360, H373	100 %

このセクションで言及されたH-ステートメントの全文は、セクション 16 を参照する。

4. 応急措置

4.1 必要な応急手当

一般的アドバイス

この安全データシートを担当医に見せる。

吸入した場合

吸入後は新鮮な空気を吸うこと。ただちに医師の診察を受けること。

皮膚に付着した場合

皮膚に接触した場合: すべての汚染された衣類を直ちに脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。医師に相談する。

眼に入った場合

眼に触れた後は多量の水ですすぐこと。眼科医の診察を受けること。コンタクトレンズをはずす。

飲み込んだ場合

飲み込んだ後はただちに水を飲ませること(多くても2杯) 医師に相談する。

4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

もっとも重要な既知の徴候と症状は、ラベル表示(項目2.2を参照)および/または項目11に記載されている

4.3 緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

データなし

5. 火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤

水 泡 二酸化炭素 (CO₂) 粉末

使ってはならない消火剤

本物質/混合物に対する消火剤の制限なし

5.2 特有の危険有害性

炭素酸化物

窒素酸化物(NO_x)

可燃性。

蒸気は空気より重く、床に沿って広がることもある。

高熱で空気と反応して爆発性混合物を生じる

火災時に有害な燃焼ガスや蒸気を生じるおそれあり。

5.3 消防士へのアドバイス

自給式呼吸器がある場合のみ危険区域に留まってもよい。安全なゾーンまで離れるか適切な保護衣を着用して、皮膚に触れないようにすること。

5.4 詳細情報

ガス / 蒸気 / ミストを水スプレージェットで抑える (除去する) 。 消火水が、地上水または地下水のシステムを汚染しないようにする。

6. 漏出時の措置

6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

救急隊員以外への助言: 蒸気、エアゾールを吸入してはならない。触れないようにすること。十分な換気を確保する。危険なエリアから避難し、緊急時手順に従い、専門家に相談のこと
個人保護については項目 8 を参照する。

6.2 環境に対する注意事項

物質が排水施設に流れ込まないようにする。

6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

排水溝に蓋をすること。こぼれたら集めて結合させ、ポンプですくい取る。物質の制限があれば順守のこと (セクション 7、10参照) 液体吸収剤(例. Chemizorb®)で処置すること。正しく廃棄すること。
関係エリアを清掃のこと。

6.4 参照すべき他の項目

廃棄はセクション13を参照。

7. 取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

安全取扱注意事項

換気フードの下で作業すること。吸い込まないこと。蒸気やエアロゾルが生じないようにすること。

衛生対策

汚した衣類はただちに替えること。予防的な皮膚保護を講じること。本物質を取り扱った後は手と顔を洗うこと。

注意事項は項目2.2を参照。

7.2 配合禁忌等を踏まえた保管条件

保管条件

密閉のこと。換気のよい場所で保管する。鍵をかけておくか、資格のあるまたは認可された人のみが入り出できる場所に入れておく。

保管クラス

保管クラス(ドイツ)(TRGS 510): 6.1C: 可燃性、急性毒性カテゴリー3 / 毒性化合物または慢性効果を引き起こす化合物

7.3 特定の最終用途

項目1.2に記載されている用途以外には、その他の特定の用途が定められていない

8. ばく露防止及び保護措置

8.1 管理パラメータ

コンポーネント別作業環境測定パラメータ

化学名	CAS番号	価値	管理パラメータ	出典
ホルムアミド	75-12-7	TWA	1 ppm	米国。ACGIH限界閾値 (TLV)
	備考	ヒト関連性は不明な動物発がん性物質 皮膚吸収の危険性		

8.2 曝露防止

適切な技術的管理

汚した衣類はただちに替えること。予防的な皮膚保護を講じること。本物質を取り扱った後は手と顔を洗うこと。

保護具

眼 / 顔面の保護

NIOSH (US) または EN 166 (EU) などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた眼の保護具を使用する。保護眼鏡

身体の保護

保護衣

呼吸用保護具

気化ガス/エアロゾル発生時に必要 次の規格に準拠しているフィルター式呼吸器保護具を推奨します。DIN EN 143、DIN 14387および使用済み呼吸器保護システムに関連する他の付属規格。

環境曝露の制御

物質が排水施設に流れ込まないようにする。

9. 物理的及び化学的性質

9.1 基礎物理および化学特性の情報

a) 物理状態	粘性液体
b) 色	無色
c) 臭い	無臭
d) 融点 / 凝固点	融点: 2.6 °C
e) 沸点, 初留点及び沸騰範囲	218.3 °C at 1,013.25 hPa
f) 可燃性 (固体、気体)	データなし
g) 爆発下限界及び爆発上限界 / 可燃限界	爆発範囲の上限: 19 %(V) 爆発範囲の下限: 2.7 %(V)
h) 引火点	152 °C
i) 自然発火温度	> 500 °C at 1,013.25 hPa

j) 分解温度	> 180 °C
k) pH	4 - 10 at 200 grm/l at 20 °C
l) 粘度	動粘度 (動粘性率) : データなし 粘度(粘性率): 3.76 mPa.s at 20 °C
m) 水溶性	完全に混和性である
n) n-オクタノール / 水分 配係数 (log 値)	log Pow: -0.82 at 25 °C - 生物濃縮は予測されない。
o) 蒸気圧	0.08 hPa at 20 °C
p) 密度	1.13 gPcm3 at 20 °C - OECD 試験ガイドライン 109
比重	データなし
q) 相対ガス密度	データなし
r) 粒子特性	データなし
s) 爆発特性	データなし
t) 酸化特性	なし

9.2 その他の安全情報

解離定数	-0.48 at 20 °C
相対ガス密度	1.56 - (空気=1.0)

10. 安定性及び反応性

10.1 反応性

高熱で空気と反応して爆発性混合物を生じる
引火点より下のおよそ15ケルビンからの範囲は危険とみなされている。

10.2 化学的安定性

標準的な大気条件(室温)で化学的に安定。

10.3 危険有害反応可能性

次により発熱反応を生じる:
酸化剤

塩基類

次との反応で爆発のおそれ:

フルフリルアルコール

リンの酸化物

過酸化水素

ヨウ素

(次の存在下):

ピリジン

そして

三酸化硫黄

次の物質との反応で爆発や有毒ガス発生の危険あり:

水分離剤

危険有害な分解生成物:

シアン化水素 (青酸)

10.4 避けるべき条件

熱。

強力な熱

10.5 混触危険物質

データなし

10.6 危険有害な分解生成物

火災の場合:項目5を参照

11. 有害性情報

11.1 毒性情報

急性毒性

LD50 経口 - ラット - オスおよびメス - 5,325 mg/kg

(OECD 試験ガイドライン 401)

LC50 吸入 - ラット - オス - 4 h - > 21 mg/l - 蒸気

(OECD 試験ガイドライン 403)

LD50 経皮 - ラット - オスおよびメス - > 3,000 mg/kg

備考: (ECHA)

皮膚腐食性 / 刺激性

皮膚 - ウサギ

結果: 皮膚刺激なし - 20 h

備考: (ECHA)

眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性

眼 - ウサギ

結果: 僅かな刺激

(OECD 試験ガイドライン 405)

呼吸器感作性又は皮膚感作性

データなし

生殖細胞変異原性

試験タイプ: Ames 試験

テストシステム: 大腸菌/ネズミチフス菌

代謝活性化: 代謝活性化の存在または不存在

方法: OECD 試験ガイドライン 471

結果: 陰性

試験タイプ: in vitroアッセイ

テストシステム: その他の細胞タイプ

代謝活性化: 代謝活性化なし

方法: 理事会規則 (EC) No. 440/2008, 付属書, B.21

結果: 陽性

試験タイプ: in vitroアッセイ

テストシステム: 胚

代謝活性化: 代謝活性化なし

結果: 陰性

備考: (ECHA)

試験タイプ: in vivo小核試験

種: マウス

細胞型: Red blood cells (erythrocytes)

投与経路: 経口

方法: OECD 試験ガイドライン 474

結果: 陰性

試験タイプ: in vivo小核試験

種: マウス

細胞型: 骨髓

投与経路: 腹腔内注射

方法: OECD 試験ガイドライン 474

結果: 陽性

試験タイプ: in vivoでの遺伝毒性

種: *Drosophila melanogaster*

投与経路: 腹腔内注射

方法: OECD 試験ガイドライン 477

結果: 陰性

試験タイプ: 優性致死試験

種: マウス

投与経路: 腹腔内注射

方法: OECD 試験ガイドライン 478

結果: 陰性

発がん性

発がんのおそれの疑い。

生殖毒性

胎児への悪影響のおそれ。

特定標的臓器毒性 (単回ばく露)

データなし

特定標的臓器毒性 (反復ばく露)

経口 - 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ。

- 血液

誤えん有害性

データなし

11.2 追加情報

反復投与毒性 - ラット - オスおよびメス - 経口 - 90 d - 無毒性レベル - 40 - 80 mg/kg

備考: 亜慢性毒性

反復投与毒性 - ラット - オス - 吸入 - 14 Days

反復投与毒性 - ラット - オスおよびメス - 経皮 - 90 d - 無毒性レベル - 100 mg/kg

RTECS: LQ0525000

胃腸不全

化学的、物理的および毒性学的性質の研究は不十分と考えられる。

接触後におそれのある作用:

運動失調(運動協調障害)

吸収によって次の障害を生じることがある:

肝臓

腎臓

その他の危険な特徴を除外してはならない。

十分な衛生的作業を行い安全規定に従って取扱う。

血液 - 便秘 - ヒトの証拠に基づく

12. 環境影響情報

12.1 生態毒性

魚毒性	止水式試験 LC50 - <i>Leuciscus idus</i> (コイの一種) - 6,569 mg/l - 96 h (DIN 38412 part 15)
ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性	止水式試験 EC50 - <i>Daphnia magna</i> (オオミジンコ) - > 500 mg/l - 48 h (理事会規則 (EC) No. 440/2008, 付属書, C.2)
藻類に対する毒性	止水式試験 ErC50 - <i>Desmodesmus subspicatus</i> (緑藻) - > 500 mg/l - 96 h (DIN (ドイツ工業規格) 38412)
微生物毒性	止水式試験 EC50 - 活性汚泥 - > 1,000 mg/l - 30 min (OECD 試験ガイドライン 209)

12.2 残留性・分解性

生分解性	好気性 - 曝露時間 28 d 結果: 99 % - 易分解性。 (OECD テスト ガイドライン 301A)
------	---

12.3 生体蓄積性

データなし

12.4 土壤中の移動性

データなし

12.5 PBT および vPvB の評価結果

化学物質安全性評価が必要ではない/行っていないため、PBT/vPvB評価データはない。

12.6 内分泌かく乱性

データなし

12.7 他の有害影響

適正に廃棄すれば、生物学的水処理を採用するプラントの機能の妨げは想定されない。

環境への放出は必ず避けなければならない。

吸収された有機結合ハ

ロゲン (AOX)

備考: 製品には有機ハロゲン含有されていない。

オゾン層への有害性

非該当

13. 廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

製品

内容物及び容器は、関連法規及び各自治体の条例等の規制に従い、産業廃棄物として適切に処理すること。

14. 輸送上の注意

14.1 国連番号

ADR/RID (陸上規制): - IMDG (海上規制): - IATA-DGR (航空規制): -

14.2 品名 (国連輸送名)

ADR/RID (陸上規制): 非危険物

IMDG (海上規制): Not dangerous goods

IATA-DGR (航空規制): Not dangerous goods

Katayama- 11-0750

ページ 12 の 14

The life science business of Merck operates as MilliporeSigma in the US and Canada



14.3 輸送危険有害性クラス

ADR/RID (陸上規制): - IMDG (海上規制): - IATA-DGR (航空規制): -

14.4 容器等級

ADR/RID (陸上規制): - IMDG (海上規制): - IATA-DGR (航空規制): -

14.5 環境危険有害性

ADR/RID: 非該当 IMDG 海洋汚染物質(該当・非該当): 非該当
非該当 IATA-DGR (航空規制): 非該当

14.6 特別の安全対策

14.7 混触危険物質

詳細情報

国際輸送に関する国連勧告の定義上は、危険物に該当しない。

15. 適用法令

15.1 物質または混合物に固有の安全、健康および環境に関する規則/法律

国内適用法令

消防法: 第4類:引火性液体, 第三石油類, 危険等級III, 水溶性液体

毒物及び劇物取締法: 非該当

労働安全衛生法

特定化学物質障害予防 非該当

規則:

有機溶剤中毒予防規 非該当

則:

名称等を通知すべき危険物及び有害物

法第 57 条の 2 (施行令別表第 9)

化学名	含有量 (%)	備考
ホルムアミド	>=90 - <=100	-

名称等を表示すべき危険物及び有害物

法第 57 条 (施行令第 18 条)

化学名	備考
ホルムアミド	-

化学物質排出把握管 第二種指定化学物質, 2023年4月1日から - ホルムアミド
理促進法:

16. その他の情報

-

セクション 2 および 3 において言及された H-ステートメントの全文。

- H351 発がんのおそれの疑い。
H360 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ。
H373 反復してあるいは長期にわたり飲み込んだ場合、臓器に障害の出るおそれがある。

詳細情報

本SDSは自社SDSデータベース並びに各種の出版されている情報、文献などに基づいて作成されていますが、すべての情報を網羅しているわけではありません。従って、本情報は化学物質の安全性の指標としてのみご使用ください。また、本SDSの記載内容は情報提供を目的としており、当該化学物質の取り扱い上のいかなる保証をなすものではありません。

Copyright 2020 Sigma-Aldrich Co. LLC. により、社内限定使用以外の本書の複写を禁じています。弊社ブランド移行期のため、この文書のヘッダーやフッターのブランド名はご購入製品のブランド名と合わない場合があります。しかし、文書中の製品に関する情報は変わらず、ご注文の製品に合致します。詳細は、こちらまでお問合せください。mlsbranding@sial.com.